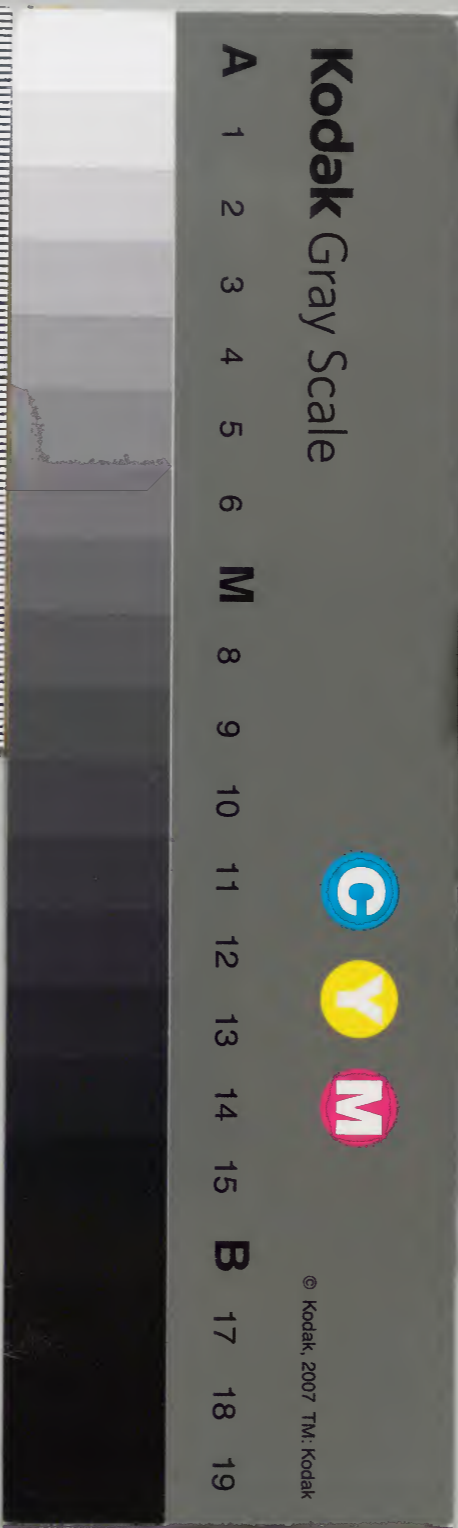


			二〇四二九	和書門
		一五三		
二四	三	九		
冊架	函	號	類	

庫	文	閣	內	
五	二			和
四	〇			書
一	四			
三	二			
架	九			
冊	號	類		

內閣文庫		
番號	和	20429
冊數	2 ( 2 )	
函號	154	198





どうちいせいらもくろく

あしをいづるすうちいせいらもくろく

おもやうもくろく

追もくろく

うもくろく

き矢のいづるともくろく

も。村人をもなり

聖山又換りもくろく

る。くろく

どう事。くろく

百十七

一回をいづるがの上もくろく

中もくろく

百十八

小美おろ。くろく

大的丸物。くろく

まもり。くろく

大的斗。くろく

くろく

帯。くろく

くろく

百十九

あし。くろく

弓矢射くともきしむるまじしを射くとも  
 云事なる 的矢射く丸物を射て草席を  
 射てはまみ物と射くともなるらまじし  
 射てとももあつまらまじなり  
 ませを死のこころきつるりよる命のこころ  
 もつらふまらまらや他鷹の羽まら羽深  
 羽をより命まらまらして仕てなる  
 つらふまらまら命のこころまらまら  
 ありとつらまら康らまらまらまらまら  
 まらまらまらまらまらまらまらまら

百廿二

百廿三

一 聖上のつらまらまらまらまらまら  
 まらまらまらの神まらまらまらまら  
 こころ草のまらまらまらまらまらまら  
 びーのまらまらまらまらまらまら  
 まらまらまらまらまらまらまら  
 まらまらまらまらまらまらまら  
 又たのこころまらまらまらまらまら  
 まらまらまらまらまらまらまら  
 まらまらまらまらまらまらまら  
 まらまらまらまらまらまらまら  
 まらまらまらまらまらまらまら

百廿五

百廿六

美人草下

下



まの物然とていつともなくくちくちくむすむすくはなれぬ  
よつふじつとつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり  
まきりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり  
もつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり  
まきりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり  
の人もつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり

<sup>百廿二</sup>あつる馬よりのつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり  
<sup>百廿三</sup>事つりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり  
あつるつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり  
あつるつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり

<sup>百廿四</sup>あつるつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり

あつるつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり  
あつるつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり  
あつるつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり  
あつるつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり

あつるつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり  
あつるつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり  
あつるつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり  
あつるつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり

あつるつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり  
あつるつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり  
あつるつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり  
あつるつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり

あつるつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり  
あつるつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり  
あつるつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり  
あつるつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり



一 馬をたてしむ。時をたてしむ。

一 馬十五

一 馬十五。馬をたてしむ。馬をたてしむ。馬をたてしむ。

一 馬十五。馬をたてしむ。馬をたてしむ。馬をたてしむ。

一 馬十五。馬をたてしむ。馬をたてしむ。馬をたてしむ。

一 馬十五。馬をたてしむ。馬をたてしむ。馬をたてしむ。

一 馬十五。馬をたてしむ。馬をたてしむ。馬をたてしむ。

一 馬十五。馬をたてしむ。馬をたてしむ。馬をたてしむ。

一 馬十五。馬をたてしむ。馬をたてしむ。馬をたてしむ。

一 馬十五。馬をたてしむ。馬をたてしむ。馬をたてしむ。

一 馬十五。馬をたてしむ。馬をたてしむ。馬をたてしむ。

一 馬十五。馬をたてしむ。馬をたてしむ。馬をたてしむ。

一 馬十五。馬をたてしむ。馬をたてしむ。馬をたてしむ。

一 馬十五。馬をたてしむ。馬をたてしむ。馬をたてしむ。

一 馬十五。馬をたてしむ。馬をたてしむ。馬をたてしむ。

一 馬十五。馬をたてしむ。馬をたてしむ。馬をたてしむ。

一 馬十五。馬をたてしむ。馬をたてしむ。馬をたてしむ。

一 馬十五。馬をたてしむ。馬をたてしむ。馬をたてしむ。

一 馬十五。馬をたてしむ。馬をたてしむ。馬をたてしむ。

一 馬十五。馬をたてしむ。馬をたてしむ。馬をたてしむ。





しんごもつて村へし

百五十三

いよりの物もさうなれどさうすといふあり。さう  
ひるもの。うらむいませとて。村へまぬ。但このいよりの  
よさあつて。回さる。紐をつつ。ひるものよさあ  
て。村へまぬ。うらむなり

百五十四

村へまぬと云ふ。たまたまひるもの。いよりの  
若狭村つきす。又若狭村へまぬ。あつらふ。若狭  
村へまぬと云ふ。いよりの。あつらふ。あつらふ。あつらふ。  
なる。いよりの。村へまぬ。いよりの。あつらふ。あつらふ。  
あつらふ。いよりの。あつらふ。あつらふ。あつらふ。

村へまぬと云ふ。いよりの。あつらふ。あつらふ。あつらふ。  
あつらふ。いよりの。あつらふ。あつらふ。あつらふ。

百五十五

苗入麻の事。いよりの。あつらふ。あつらふ。あつらふ。  
村へまぬ。いよりの。あつらふ。あつらふ。あつらふ。  
あつらふ。いよりの。あつらふ。あつらふ。あつらふ。  
あつらふ。いよりの。あつらふ。あつらふ。あつらふ。  
あつらふ。いよりの。あつらふ。あつらふ。あつらふ。  
あつらふ。いよりの。あつらふ。あつらふ。あつらふ。

百五十六

大事の物。あつらふ。あつらふ。あつらふ。あつらふ。  
あつらふ。いよりの。あつらふ。あつらふ。あつらふ。  
あつらふ。いよりの。あつらふ。あつらふ。あつらふ。

ひのろめとて。うらしためとて。梅とて。まざる  
 百五十七  
 一 馬はきき。大事のつらき。まじり。つら  
 ちへを。刺まじり。つらき。つらき。つらき。つら  
 なり。つらき。つらき。つらき。つらき。つら  
 百五十八  
 一 あを馬うける。つらき。つらき。つらき。つら  
 刺へ。まじり。つらき。つらき。つらき。つら  
 ちへを。つらき。つらき。つらき。つらき。つら  
 百五十九  
 一 馬を馬うける。つらき。つらき。つらき。つら  
 ちへを。つらき。つらき。つらき。つらき。つら  
 刺へ。つらき。つらき。つらき。つらき。つら

る。つらき。つらき。つらき。つらき。つら  
 を。つらき。つらき。つらき。つらき。つら  
 ちへを。つらき。つらき。つらき。つらき。つら  
 百六十  
 一 馬はきき。つらき。つらき。つらき。つら  
 ちへを。つらき。つらき。つらき。つらき。つら  
 刺へ。つらき。つらき。つらき。つらき。つら  
 百六十一  
 一 馬はきき。つらき。つらき。つらき。つら  
 ちへを。つらき。つらき。つらき。つらき。つら  
 刺へ。つらき。つらき。つらき。つらき。つら

百六十一

一 姆せ馬さると狐馬よりおひきく。くらりて射は左  
ゆりき狐とらるる。捉る馬よりおひきく。物狐  
射は。左のゆりき狐とらるる。他物よりおひきく。を  
らくちり。ば。きまう。射へ。さした。ゆ

百六十二

一 ける狐射るよ。な。馬よりおひきく。さ。ら。り。  
馬よのり。さ。手繩を。ひ。て。射。さ。り。馬よ  
む。ひ。て。さ。ら。は。お。さ。ま。り。さ。ら。り

百六十三

一 ち。き。鳥。も。さ。り。射。さ。馬。よ。う。て。し。物。式。の。ら  
さ。ら。の。射。ら。さ。ら。ひ。の。狐。と。さ。ら。り。さ。ら。な。か。り。  
さ。ら。の。手。繩。よ。と。さ。ら。り。て。さ。ら。り。手。の。さ。ら。ひ。も

を。の。の。さ。ら。り。の。さ。ら。て。あ。ら。り。さ。ら。り。射

の。さ。ら。り。さ。ら。り。て。又。馬。の。ひ。の。狐。の。さ

ら。り。さ。ら。り。物。式。の。さ。ら。り。さ。ら。り。射。さ。ら。り

ひ。き。入。り。さ。ら。り。て。か。ら。い。さ。ら。り。さ。ら。り。さ。ら。り

さ。ら。り。あ。ら。り。さ。ら。り。の。さ。ら。り。さ。ら。り。射。さ。ら。り

あ。ら。り。さ。ら。り。さ。ら。り。ひ。も。射。さ。ら。り。さ。ら。り。射

さ。ら。り。さ。ら。り。て。ひ。も。射。さ。ら。り。さ。ら。り。ひ。の。狐。が

と。射。て。さ。ら。り。さ。ら。り。の。さ。ら。り。さ。ら。り。馬。射。さ。ら。り

さ。ら。り。さ。ら。り。さ。ら。り。の。ひ。の。狐。射。さ。ら。り。ひ。と

ひ。の。さ。ら。り。て。物。式。射。さ。ら。り。ひ。の。さ。ら。り。の。ひ。の。狐。が



のこさぬず。つらも。不苦。鳥さ。や。有<sup>カ</sup>とぬ。て  
 り。事。い。ある。あ。も。や。小。る。鷄<sup>ウツラ</sup>。さ。い。と。有。と  
 め。て。可。村。也。が。後。ら。り。又。ひ。も。袖。と。あ。い。め  
 ぎ。く。あ。い。も。ぐ。も。い。ま。ま。也。小。鳥。詔<sup>ウツラ</sup>  
 る。も。あ。い。つ。つ。村。さ。ひ。も。深。懐<sup>フシホロ</sup>。を。入。て。可。村。也  
 一 <sup>百十九</sup> 又。き。人。さ。い。何。鳥。を。可。村。也。さ。い。鳥。さ。い  
 せ。や。矢。な。ら。く。一。く。矢。さ。う。く。あ。く。可。村。也  
 一 <sup>百二十</sup> 本。鳥。つ。ら。ぬ。弟。の。也。鳥。む。ひ。て。馬。を。う。さ。て  
 馬。を。い。の。繩。を。は。り。ひ。て。う。ら。ひ。も。さ。い。り。て。さ。い。さ  
 る。あ。る。も。可。村。也。本。鳥。を。い。の。可。村。也。小。鳥。を。

ち。あ。い。ひ。も。袖。と。あ。い。め。ぎ。く。あ。い。も。ぐ。も。い。ま。ま。也。小。鳥。詔  
 る。も。あ。い。つ。つ。村。さ。ひ。も。深。懐。を。入。て。可。村。也  
 一 <sup>百二十一</sup> 又。き。人。さ。い。何。鳥。を。可。村。也。さ。い。鳥。さ。い  
 せ。や。矢。な。ら。く。一。く。矢。さ。う。く。あ。く。可。村。也  
 一 本。鳥。つ。ら。ぬ。弟。の。也。鳥。む。ひ。て。馬。を。う。さ。て  
 馬。を。い。の。繩。を。は。り。ひ。て。う。ら。ひ。も。さ。い。り。て。さ。い。さ  
 る。あ。る。も。可。村。也。本。鳥。を。い。の。可。村。也。小。鳥。を。

うがひくく。せうとて。りたり。うらうら。いづま。あやうも

一 <sup>百十五</sup> 船中。うらうら。せうとて。りたり。うらうら。いづま。あやうも

船中の後あり。舟とて。りたり。うらうら。いづま。あやうも

一 <sup>百十二</sup> あしし。可射。換るも。せうとて。りたり。うらうら。いづま。あやうも

か。うらうら。を。せうとて。りたり。うらうら。いづま。あやうも

うらうら。うらうら。も。うらうら。も。うらうら。も。うらうら。も

せうとて。りたり。うらうら。いづま。あやうも

うらうら。可射也。矢。車。も。うらうら。いづま。あやうも

矢。車。も。うらうら。いづま。あやうも

て。可射也。うらうら。いづま。あやうも

一 <sup>百十七</sup> うらうら。いづま。あやうも

一 射。あし。馬。も。うらうら。いづま。あやうも

うらうら。いづま。あやうも

中。うらうら。いづま。あやうも

氣。うらうら。いづま。あやうも

うらうら。いづま。あやうも

一 <sup>百十五</sup> 矢。車。も。うらうら。いづま。あやうも

存。うらうら。いづま。あやうも

うらうら。いづま。あやうも

一 <sup>百十六</sup> 矢。車。も。うらうら。いづま。あやうも

あすまのまじりまがら板まするゆるやうあはすゆるや

百六十一  
あすまのまじりまがら板まするゆるやうあはすゆるや

あすまのまじりまがら板まするゆるやうあはすゆるや

百六十二  
あすまのまじりまがら板まするゆるやうあはすゆるや

あすまのまじりまがら板まするゆるやうあはすゆるや

百六十三  
あすまのまじりまがら板まするゆるやうあはすゆるや

あすまのまじりまがら板まするゆるやうあはすゆるや

百六十四  
あすまのまじりまがら板まするゆるやうあはすゆるや

あすまのまじりまがら板まするゆるやうあはすゆるや

百六十五  
あすまのまじりまがら板まするゆるやうあはすゆるや

あすまのまじりまがら板まするゆるやうあはすゆるや

百六十六  
あすまのまじりまがら板まするゆるやうあはすゆるや

あすまのまじりまがら板まするゆるやうあはすゆるや

百六十七  
あすまのまじりまがら板まするゆるやうあはすゆるや

あすまのまじりまがら板まするゆるやうあはすゆるや

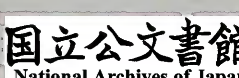
百六十八  
あすまのまじりまがら板まするゆるやうあはすゆるや

あすまのまじりまがら板まするゆるやうあはすゆるや

百六十九  
あすまのまじりまがら板まするゆるやうあはすゆるや

あすまのまじりまがら板まするゆるやうあはすゆるや

百七十  
あすまのまじりまがら板まするゆるやうあはすゆるや







夫がささかたのいふはなすむかひのさすむかひ

は二のちのひのちのちのちのちのちのちのちのち

うはひのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

代よるむかひのち

馬よるむかひのちのちのちのちのちのちのちのち

のちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

右のちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

あつちのち

雨のちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

さのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

あつちのちのちのち

日敷のちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

をのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

馬のちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

うのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

はのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

をのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

をのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

きよのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

若のちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

てまゝの草紙も来る也。うたへりては

何草紙カキてくまの草紙カキなるなり

百五十四

うらぶ針カキの草紙カキなるなり

針カキの草紙カキなるなり

草紙カキなるなり

草紙カキなるなり

草紙カキなるなり

草紙カキなるなり

草紙カキなるなり

草紙カキなるなり

百五十五

うらぶ針カキの草紙カキなるなり

針カキの草紙カキなるなり

草紙カキなるなり

草紙カキなるなり

草紙カキなるなり

草紙カキなるなり

草紙カキなるなり

草紙カキなるなり

草紙カキなるなり

草紙カキなるなり

百九十七  
一 尻を付くも何事か入るや

主の尻の付りたるを付くは目ぢし

と云う人々持も書後なり又さる書

番の付目先教るはさるるを付

るよりさる付持て人々礼をさる付

るはさるてさる付さるはさる

るはさるてさる付さるはさる

を人々をさる付さるはさる

百九十九  
一 主の尻の付腰當りするはさる

しはさるはさるはさるはさる

音  
一 馬の尻の付さるはさるはさる

はさるはさるはさるはさる

はさるはさるはさるはさる

はさるはさるはさるはさる

はさるはさるはさるはさる

はさるはさるはさるはさる

二  
一 自然の用付さるはさるはさる

はさるはさるはさるはさる

はさるはさるはさるはさる

はさるはさるはさるはさる

<sup>二百二</sup>一 ちしきしきまがよとして物次村の町を二の矢とて  
<sup>二百三</sup>二 三河まをりつ又矢野つづひていあへる海一松  
<sup>二百四</sup>三 か物次ま二の矢とてはづひくもやたつぐへし三河  
<sup>二百五</sup>矢とてまをりつるまへ一矢あり  
<sup>二百六</sup>一 徳矢まのらまをりつるまへ一徳也  
<sup>二百七</sup>二 徳矢まのらまをりつるまへ一徳なり  
<sup>二百八</sup>三 徳矢まのらまをりつるまへ一徳なり  
<sup>二百九</sup>四 徳矢まのらまをりつるまへ一徳なり  
<sup>三百</sup>五 徳矢まのらまをりつるまへ一徳なり

<sup>二百一</sup>一 ちしきしきまがよとして物次村の町を二の矢とて  
<sup>二百二</sup>二 三河まをりつ又矢野つづひていあへる海一松  
<sup>二百三</sup>三 か物次ま二の矢とてはづひくもやたつぐへし三河  
<sup>二百四</sup>四 徳矢まのらまをりつるまへ一徳也  
<sup>二百五</sup>五 徳矢まのらまをりつるまへ一徳なり  
<sup>二百六</sup>六 徳矢まのらまをりつるまへ一徳なり  
<sup>二百七</sup>七 徳矢まのらまをりつるまへ一徳なり  
<sup>二百八</sup>八 徳矢まのらまをりつるまへ一徳なり  
<sup>二百九</sup>九 徳矢まのらまをりつるまへ一徳なり  
<sup>三百</sup>十 徳矢まのらまをりつるまへ一徳なり

一章 文ももつていふ事也あつて度もつていふ事也  
海のうらやまのうらやまのうらやまのうらやまのうらやま

二章 文ももつていふ事也あつて度もつていふ事也

三章 文ももつていふ事也あつて度もつていふ事也

四章 文ももつていふ事也あつて度もつていふ事也

五章 文ももつていふ事也あつて度もつていふ事也

六章 文ももつていふ事也あつて度もつていふ事也

七章 文ももつていふ事也あつて度もつていふ事也

八章 文ももつていふ事也あつて度もつていふ事也

九章 文ももつていふ事也あつて度もつていふ事也

十章 文ももつていふ事也あつて度もつていふ事也

十一 文ももつていふ事也あつて度もつていふ事也



一 神のあはれむらじ。も馬をきかへるまはめはす。び  
 び又はの然る。しして。たむ。事。の。か。ま。ひ。て。  
 三十一 三十一 三十一 三十一 三十一 三十一 三十一  
 まじふ。事。た。と。も。ま。て。孔。也。す。し。  
 三十一 三十一 三十一 三十一 三十一 三十一 三十一  
 ま。又。し。も。さ。る。事。人。も。の。鞍。着。し。馬。の。の。討  
 を。あ。し。す。り。ま。て。め。ら。討。純。り。自。然。も。て。の。  
 三十一 三十一 三十一 三十一 三十一 三十一 三十一  
 な。り。ま。も。礼。なり。  
 三十一 三十一 三十一 三十一 三十一 三十一 三十一  
 矢。入。る。ま。も。ま。じ。し。ん。と。も。も。志。意。的。の。草。原。  
 三十一 三十一 三十一 三十一 三十一 三十一 三十一  
 丸。物。も。り。よ。さ。り。き。あ。り。ま。も。も。ま。し。ん。る。い。じ。し。な  
 三十一 三十一 三十一 三十一 三十一 三十一 三十一  
 物。く。う。ふ。の。羽。を。し。は。り。も。し。は。む。ま。也。人。を。調。  
 三十一 三十一 三十一 三十一 三十一 三十一 三十一  
 伏。さ。り。討。入。る。る。と。に。く。く。な。り。な。り。

鹿の度。の。び。つ。り。あ。ら。ぬ。の。び。と。ん。の。び。と。ん。  
 三十一 三十一 三十一 三十一 三十一 三十一 三十一  
 う。つ。ら。い。も。う。す。き。な。る。あ。ら。ぬ。の。び。と。ん。  
 三十一 三十一 三十一 三十一 三十一 三十一 三十一  
 巡。る。た。り。あ。ら。ぬ。の。び。と。ん。の。び。と。ん。  
 三十一 三十一 三十一 三十一 三十一 三十一 三十一  
 よ。死。ら。ぬ。す。ま。は。り。し。も。う。ら。ぬ。の。び。と。ん。  
 三十一 三十一 三十一 三十一 三十一 三十一 三十一  
 ま。り。の。は。り。も。た。り。の。び。と。ん。  
 三十一 三十一 三十一 三十一 三十一 三十一 三十一  
 お。除。り。討。入。る。馬。も。う。し。し。も。の。び。と。ん。  
 三十一 三十一 三十一 三十一 三十一 三十一 三十一  
 を。す。す。す。も。あ。ら。ぬ。の。び。と。ん。の。び。と。ん。  
 三十一 三十一 三十一 三十一 三十一 三十一 三十一  
 し。ら。び。と。ん。あ。ら。ぬ。の。び。と。ん。の。び。と。ん。



卷之三

七三

右一卷者。小笠原備前守持長持名子息之

民部少輔殿持清和伯備前守多年之忠運

此志志為レ一レ之レ依レ本レ加レ入レ是レ統レ小笠

原備前入是汝相傳之圖書并古典後也

之身宗後應永年中五貞元日子息持長

相傳之圖書令相續之志レ致レ礼レ受レ令レ傳レ云

能於此乃レ之レ上レ之レ秘レ授レ於レ子レ孫レ之レ為レ用レ族

志可令相傳者也

寛正五年十一月日

安永九年庚子春正月吉日平安書肆循古堂求版



